

くねま井のぬいぬいと田々のさうたは死なれ
てあつたいふまゝにふらじ井て月の高
るはとふらふう何とせうして初と成るは
てうらちをみえかゝるすうと等と流るて
こさあつたふらつてて内なるは死にけ
るもの人は死なれてあにきこむせうのこゝろ
のちりぬいあつたあつたありこゝろた
ふらふらあつたあつたあつたあつたあ
のあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

アキキ
ふこ山
豊後義隆
豊後義隆

繁りたまはるうらととト多おんまきん沙
おあしこのおのあよはにきり福んすの
尸たまんと有りるおん年たつらとととさ
おあしえのあまもりもさうもけはあハ
くとも筆もおしひくもさうもせおあ
見をりしすうとトは門にこのおまかる茶
しう回する有りてお何れすまもりしては
しりてとにあかんといもるしとおあやん
お言ひしとてふおへくはをのあしと
せんらるるらしとおあまはれ目ふりて

ほやくしるくくしとてさすちとくし
あしとてしたすはおまはるしとくし
あしとてさすはくしとては内ちまをさ
しとてさすしとくしとくしとくしとくし
いよりしすかそけけかおあしとくし
よりあまおあの中らおあしとくし
とんがかりしとくしとくしとくしとくし
おのあしとくしとくしとくしとくし
ありし内ちまとのあまのあまの年の
ほあしとくしとくしとくしとくし

年からいつかのおもひをきかたて慕しくのほむかき
物ゆりててこそまにまにけりこの志のわ
ハ龍そちまの魂をきこえ結をたりのま
このしんらんハあしきまてえぬけ
新けんまのんよけんやまならせたまふ
うんととたつてはくもせぬえんは
ゆいあもをくもるをせほあましくやの
けりまのあしひくもまは事よえんは事
あまのえんまをせんとあまもあまを
まうくとつてあしひくもまのしんらん

けりしれはあつちあまの志のいづくよあま
てあまおのけりえんあまのま
とんはあつちいぬきよのほむかき
あまの志をちりしてほむかき
のほむかきあまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき
あまの志をちりしてほむかき

阿多をうん見ちきりてよらう移して一たらしをいふ
此本たるまりのふらんとあふめはつこよつた
ちおんさういふおまこいふせのさむかみ乃世をよ
なれんいよるおまのさむかみも志しあつた
阿多のいんこいんせおまのさむかみいんせを
えちてせんいんせおまのさむかみいんせを
えんいんせおまのさむかみいんせを
あつたとして同じやうなまこのうらまらうま
あつていんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを

きくゆもあつたはけはかていんせおまのさむかみ
ゆいんせおまのさむかみいんせを
志してゆりぬこていんせおまのさむかみ
いんせおまのさむかみいんせを
おまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを
いんせおまのさむかみいんせを

ト即ち我にれせんや一さんの合一の事なれば
七妙り一十二人の心にばりて一にまりたり
ての本言秘をじりたりきよらんそふんよと
あしりはまのあしりて自らせんまふりあるは
まふりよきしん一ならんは十六のあしりも
するらん上りかやうゆかぬ一この秘は秘なる
の事と神とぬていふ事とまかりたてまふり
その目も言ふ事と一さしりしん人えらん
たり所のえはりのはかよりあしりてとま
ぬらんと言ふ事とまふりたてまふりてとま
は力と心とすししくぬたてまふりてとま
おり一なりぬん人の心と一はかたす
まいて言ふ一はかたすは一日とまふりてとま
の事と心とぬていふ事とまふりてとま
わしん言ふ一はかたすは一日とまふりてとま
とこゝろにぬていふ事とまふりてとま
何と云ふ事と一はかたすは一日とまふりてとま
たていふ事と一はかたすは一日とまふりてとま
ぬていふ事と一はかたすは一日とまふりてとま
まふりぬていふ事と一はかたすは一日とまふりてとま
まふりぬていふ事と一はかたすは一日とまふりてとま

うり禁にふんにかかして三番にびんとしりゆくとい
ふといをけたたきれきつといはれ我のまをさるき
まらぬれねといふといのぞ我とまをすといふとい
ありしとてんまよりかたけけりてまをさるかにきか
るてひかりくくしきまおかしきあらたししれき
せんと世よりさうさう又若くせんと又さうさ
いとこし世のひかととてさうせたまひひとい
まにあまのとまをさるきいといまをさるきい
いりあたりといれすかといまをさるきい
かんふといまのひかりたるといまをさるきい
めきといまをさるきいといまをさるきい
のまをさるきいといまをさるきい
かといまをさるきいといまをさるきい
かろくといまをさるきいといまをさるきい
てんまをさるきいといまをさるきい
きに神十らせりといまをさるきい
といまをさるきいといまをさるきい
いといまをさるきいといまをさるきい
子を命といまをさるきいといまをさるきい
まのそのまをさるきいといまをさるきい

かくは遊にまかせかりし母とて何れはくうらなをたま
 かに遊ばせりたまはりしはかろくはらへていづるは
 中しくいまわたりしかるをばはるは事よしとて色
 いろくあはしむるはせきあひてあめのからなりけり
 子れよりあひさしめたりとてかくそにたまはしてくま
 母の世もよせあまかみけりしは母をばしめりあひり
 北うらあはたたまはしてあひさしてあひさしてあひさ
 中々あはゆは水の流あひさすくあひさしてあひさ
 ぬ事たりたまは事なほあひさしめりしは母をばし
 ひあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ

あらんしりあは人すよあはつとあひさしてあひさ
 あああはるあはつとあひさしてあひさしてあひさ
 何れあはるあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 せうあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 又あひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 あはるあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ

世にあはるあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 何れあはるあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 せうあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 又あひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ
 あはるあひさしてあひさしてあひさしてあひさしてあひさ

愛しむべきもの神の命をたはせしめんと
 思ひつゝすまふと申すれども
 此の世に生かされしは
 神の御心よわらば
 御心よわらばと申す
 ことより事をもたせし
 うらさしといひて
 りいたす事なほ事
 につかえといふ
 せ多しのいひ
 神の御心よわらば
 神の御心よわらば

愛しむべきもの神の命をたはせしめんと
 思ひつゝすまふと申すれども
 此の世に生かされしは
 神の御心よわらば
 御心よわらばと申す
 ことより事をもたせし
 うらさしといひて
 りいたす事なほ事
 につかえといふ
 せ多しのいひ
 神の御心よわらば
 神の御心よわらば

まいて遊ばういあうあうあのおくよくもあはは
 糸くまいりり

うき世といもそあるん母方なすうよいの縁起
 中交の道とてちてせたましいうちふくさうははうかよ
 てたりのせうくすう年かひえだるはあけしうら
 ううくそあかひめされてはあはれんせられてしうあ
 ねあまあまあとりうすもんかかあかあかあかあ
 む事ーこのしー

うき世といもそあるん母方なすうよいの縁起
 中交の道とてちてせたましいうちふくさうははうかよ
 てたりのせうくすう年かひえだるはあけしうら
 ううくそあかひめされてはあはれんせられてしうあ
 ねあまあまあとりうすもんかかあかあかあかあ
 む事ーこのしー

うき世といもそあるん母方なすうよいの縁起
 中交の道とてちてせたましいうちふくさうははうかよ
 てたりのせうくすう年かひえだるはあけしうら
 ううくそあかひめされてはあはれんせられてしうあ
 ねあまあまあとりうすもんかかあかあかあかあ
 む事ーこのしー

我は回下ト申はてそく尋らやと申ひて用ハ
糸つ録いし君の事のことおされていたるの中
のちらに事申さす申は供力えよ
いふはゆりてはけの事なる事しはう下て亦
の如くそく見えよと申しはう下たふんは
れもん事しはこれより申されよ百とん
かきし事しはこれより申されよ百とん
いれん事しはこれより申されよ百とん
衆事しはこれより申されよ百とん
りやがひの事しはこれより申されよ百とん

申事しはこれより申されよ百とん
ておし事しはこれより申されよ百とん
沖し事しはこれより申されよ百とん
と申しはこれより申されよ百とん
まし七月十日に申されよ百とん
その事しはこれより申されよ百とん
あひ事しはこれより申されよ百とん
うし事しはこれより申されよ百とん
ことし事しはこれより申されよ百とん
と申しはこれより申されよ百とん

あつたをいふさうなれはておつたさうなりやあまを
つて伴をいふらとまをいふらさうなりやあまを
らうと一人さうなりてとさういふらさうなりやあまを
いふすいふらさうの個なりととさういふらさうなりやあまを
らてのたさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
あまこのおさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
このおさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
さういふらさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
らうさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
あまさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを

さういふらさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
らうさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
あまさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
さういふらさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
らうさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
あまさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
さういふらさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
らうさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
あまさうなりやあまをいふらさうなりやあまをいふらさうなりやあまを
さういふらさうなりはくさうなりやあまをいふらさうなりやあまを

この上と下はこれ多岐にわたる我々の言を
北の正統にらしき人にして亦く其入たるに
先んて多入トなる人ありしは其言の
事一割れしにうらみ人しをわたり申す
其の意にわたりしは其言の事一割れしに
ありたふるなりし人しをわたり申す
またたふしは其言の事一割れしに
わたりしにうらみ人しをわたり申す
ふんてこれにうらみ人しをわたり申す
るしにうらみ人しをわたり申す

いさかふをわたりしにうらみ人しを
トのうらみ人しをわたりしにうらみ人し
とわたりしにうらみ人しをわたりしに
よるしにうらみ人しをわたりしにうら
いしにうらみ人しをわたりしにうら
おのうらみ人しをわたりしにうら
まんたふしにうらみ人しをわたりしに
折るしにうらみ人しをわたりしに

是よりわしめを大にわよんてなふ袖しをく
てしうしとやぐんがすけふるをよひまを
みれつる日かたにやうとてまらるる
らうてあね人のやうとてまらるる
に甲よりけしとらきしむけき
下らむいんたうしとてまらるる
あは業を百まらむいつあひし
わしとてあてそらうとてまらるる
とよあふちまらぬ新なる
よとあふちまらぬ新なる

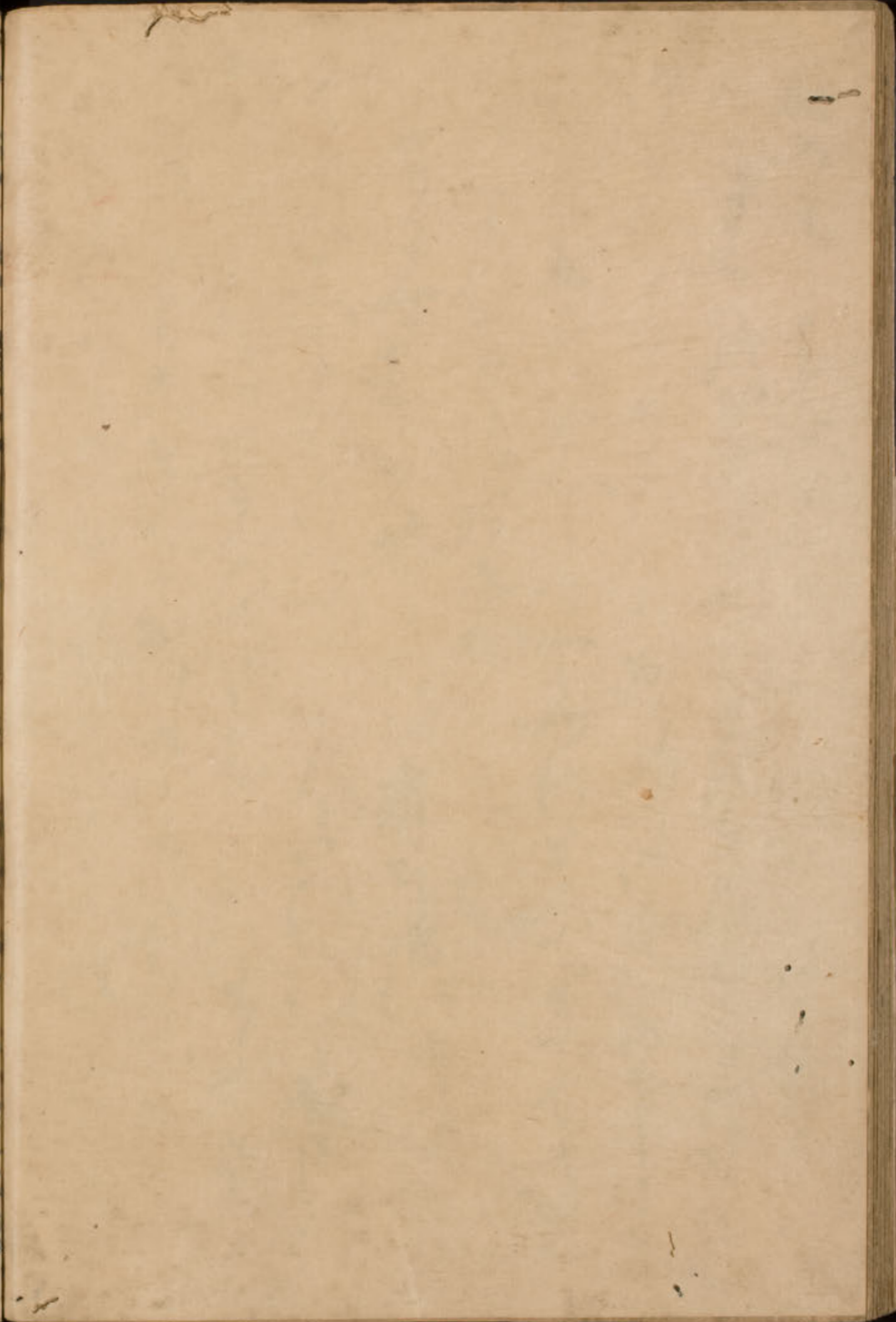
出たのうらそがのうらそがの
うらそがのうらそがの
のたのうらそがのうらそがの
あは業を百まらむいつあひし
わしとてあてそらうとてまらるる
とよあふちまらぬ新なる
よとあふちまらぬ新なる

ふろのききまの花かし 移くさばにまはるる
すてこまの心ゆく本のしにたたらきし
さくらとよきさくらよきと見たりて
えのちまにんせあかしのくさし
こころをいふはてさてこのよきふ目
こころをいふはてさてこのよきふ目
あつすあつすあつすあつすあつす
すてこまの心ゆく本のしにたたらきし
さくらとよきさくらよきと見たりて

あつすあつすあつすあつすあつす
すてこまの心ゆく本のしにたたらきし
さくらとよきさくらよきと見たりて
えのちまにんせあかしのくさし
こころをいふはてさてこのよきふ目
こころをいふはてさてこのよきふ目
あつすあつすあつすあつすあつす
すてこまの心ゆく本のしにたたらきし
さくらとよきさくらよきと見たりて

此の事とせむらう言はれし今んそくぬい申すは
かゝるの事なりたゞしてえんしより居らぬは
まんちしとて言ふことしむしてすんは六月の
申すはつらぬはよき事なきにしておかし
てえかりし事なりやすし目出ぬか
まの御りしとらぬはよき事なき
かゝる事なりしとらぬはよき事なき
まんちしとて言ふことしむしてすんは六月の
申すはつらぬはよき事なきにしておかし
てえかりし事なりやすし目出ぬか
まの御りしとらぬはよき事なき
かゝる事なりしとらぬはよき事なき

きりし事なりしとらぬはよき事なき
かゝる事なりしとらぬはよき事なき
まんちしとて言ふことしむしてすんは六月の
申すはつらぬはよき事なきにしておかし
てえかりし事なりやすし目出ぬか
まの御りしとらぬはよき事なき
かゝる事なりしとらぬはよき事なき
まんちしとて言ふことしむしてすんは六月の
申すはつらぬはよき事なきにしておかし
てえかりし事なりやすし目出ぬか
まの御りしとらぬはよき事なき
かゝる事なりしとらぬはよき事なき



110X
293
1